

熱田ブランド推進プロジェクト “あつた人（びと）”になろう！

「裁断橋」でかねがね疑問に思っていたこと

1 平成 25 年度の熱田区区政運営方針（抜粋）

裁断橋・姥堂

大正時代まで熱田区内には精進川が流れ、東海道には裁断橋が架けられていました。

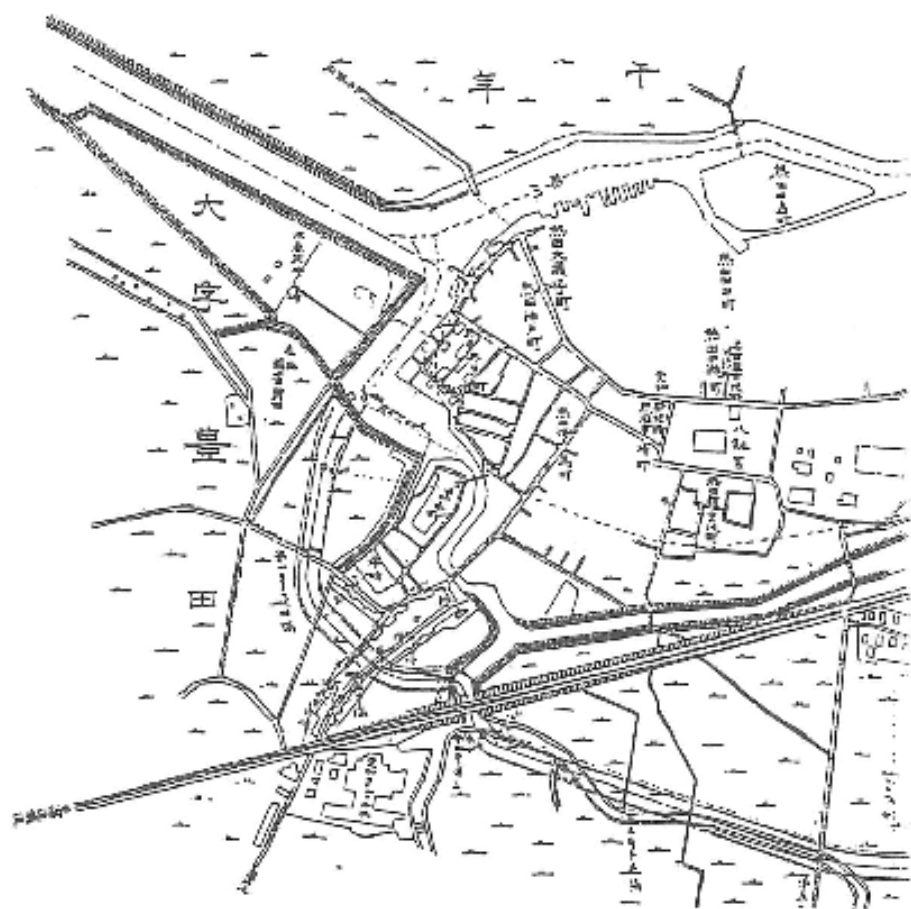
1590 年、18 歳の堀尾金助は小田原の戦いに出発しましたが、病に倒れ帰らぬ人となりました。

裁断橋まで出征を見送った母は、翌年、供養のために裁断橋を架け替えました。

その後、33 回忌にも再度架け替えを行い、擬宝珠に刻まれたわが子に対する母の想いが人々に語り継がれました。

2 「裁断橋」がかかっていた精進川はどこに有って、なぜ今は無いのか？

- ・精進川は、『名古屋市史』によると新川の下流のことで「熱田東町字三本松より伝馬町姥堂の東脇をへて、熱田湾に注ぐ」とある。その流路は屈曲が多く、降雨時に氾濫することがしばしばあった。
- ・明治 37 年、国が熱田地内に兵器製造所の設置を計画した。
- ・明治 38 年、市会に「精進川改修施行案」を提出した。約 33 ヘクタールの敷地造成のため、盛土土砂約 30 万立方メートルが必要だった。精進川を改修して、その掘削土砂を提供すれば、工事費を補い、治水対策の効果が発揮できる。中区堀留から熱田まで、延長約 5,750 メートルの改修工事となった。
- ・明治 43 年、精進川の改修が完了した。
- ・明治 44 年、新堀川と名称を変更した。名古屋工場、日本車輛、東邦ガス、日本碍子を始めた工業地帯が形成された。
- ・昭和元年、精進川は埋められ、裁断橋は「川のない橋」となった。



精進川の図面（明治四〇年代）
（精進川改修工事竣工報告書）

【引用：熱田区誌 P.232～234】

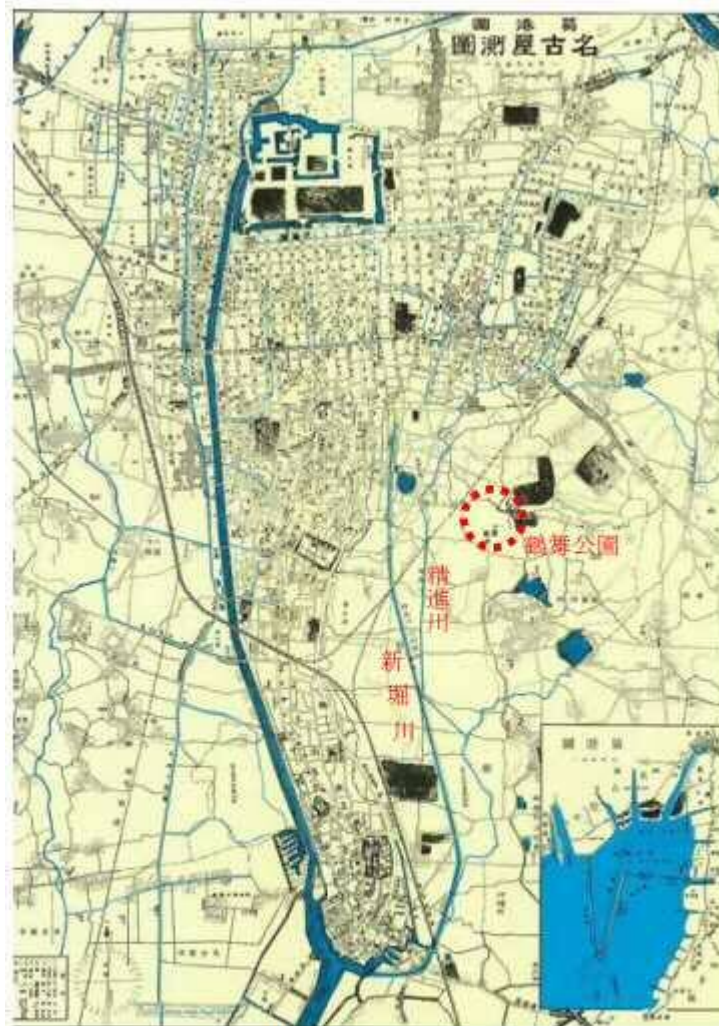


図-1.7 明治40年代の新堀川
出典：名古屋測図

一級河川庄内川水系 堀川圏域河川整備計画 P.8 (平成22年10月13日 名古屋市)

3 「母は、翌年、供養のために裁断橋を架け替えました。その後、33回忌にも再度

架け替えを行い」とあるが、なぜ二度も架け替える経済力があったのか？

- ・1543年、堀尾金助の一族である堀尾吉春は、愛知県大口町で生まれた。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた武将であった。

- ・1600年、堀尾吉春の息子の忠氏は、出雲・隠岐の24万石の大名となった。その後忠氏は亡くなり、堀尾吉春は孫の後見で活躍した。

- ・1611年、堀尾吉春は、松江城と城下町の建設により、島根県松江市では、松江開府の祖と呼ばれている。

- ・堀尾金助の一族である堀尾吉春が、三英傑の元で活躍し、江戸時代で大名クラスの力があつた。経済力は大きかったと考えられる。

- ・現在、大口町では堀尾跡（ほりおせき）公園内に復元した裁断橋と姥堂が整備され、大口町と島根県松江市とで姉妹都市提携を結んでいる。



【愛知県大口町 堀尾跡公園、裁断橋】

【参考文献等】

「平成 25 年度の熱田区区政運営方針」

「名古屋市 熱田区誌」（昭和 62 年 10 月 1 日発行）

「一級河川庄内川水系 堀川圏域河川整備計画」（平成 22 年 10 月 13 日）

「郷土ゆかりの武将 堀尾氏」（大口町歴史民俗資料館）

住みたくなるまち 訪れたいまち あったか熱田

平成25年度 熱田区区政運営方針



裁断橋・姥堂

姥堂・裁断橋・呼続濱舊蹟（尾張名所図会:一部加工・着色、名古屋都市センター提供）



復元された裁断橋



街道宿場市

平成25年5月

 名古屋市熱田区役所

目 次

区長あいさつ	1
1. 現状と課題・目標とする姿・取組項目	2
2. 区政運営の4つの視点と主な取組内容	
(1) 安心・安全で快適なまち	4
(2) 区民一人ひとりが「生きがい」や 「あったかさ」を感じられるまち	8
(3) 歴史的資産、文化的風土を活かした 「にぎわい・交流」のあるまち	12
(4) 皆さまに信頼されるあったか区役所	14
3. 区内公所（署）の取組み	16
4. 平成24年度の取組結果（概要）	20
5. 区長の裁量が発揮できる予算	
(1) 平成25年度予算の概要	22
(2) 平成24年度予算の執行状況	23
参考	
区内で実施予定の主な事業	24

【表紙について】

（尾張名所図会）名古屋のまちの変化を紹介するために、「名古屋都市センター」で、江戸時代に描かれた「尾張名所図会」の原本を一部加工、着色したものです。

この絵には、江戸時代の裁断橋、姥堂などが描かれています。

大正時代まで熱田区内には精進川が流れ、東海道には裁断橋が架けられていました。また、精進川を三途の川と見立て、橋のたもとには死者の衣服を奪い取る奪衣婆（だつえば）をまつる姥堂がありました。橋の名の由来には、死者を閻魔大王が裁断する場という説もあります。

1926年に川が埋め立てられ橋は撤去されましたが、1953年に近くの姥堂境内に縮小して復元されました。元の橋の欄干の擬宝珠（ぎぼし）は名古屋市文化財に指定され、名古屋市博物館に所蔵されています。そして、この擬宝珠の一つには、私財を投じて橋の架け替えを行った堀尾金助の母が、亡き子をしのんで書いたとされる和文の銘が刻まれています。

1590年、18歳の堀尾金助は小田原の戦いに出発しましたが、病に倒れ帰らぬ人となりました。裁断橋まで出征を見送った母は、翌年、供養のために裁断橋を架け替えました。その後、33回忌にも再度架け替えを行い、擬宝珠に刻まれたわが子に対する母の想いが人々に語り継がれました。

なお、愛知県大口町に堀尾一族の屋敷があったことから、同町の五条川にも裁断橋と擬宝珠が復元され堀尾跡公園となっています。